

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

| | | | | | |
|-------|--|-------------------------------|----------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 事務事業名 | 福祉タクシー助成事業 | | | 事業コード | 0371 |
| 所属コード | 062100 | | 課等名 | 障がい福祉課 | |
| 課長名 | 晴山 陽夫 | | 担当者名 | 阿部 雄太 | |
| 評価分類 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般 | <input type="checkbox"/> 公の施設 | <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 | <input type="checkbox"/> 補助金 | <input type="checkbox"/> 内部管理 |

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

| | | | | |
|------------|------------------------------------|---|-----------------------------------|---------------|
| 総合計画 体系 | 施策の柱 | いきいきとして安心できる暮らし | コード | 1 |
| | 施策 | 共に歩む障がい者福祉の実現 | コード | 3 |
| | 基本事業 | 障がい者福祉サービスの充実 | コード | 2 |
| 予算費目名 | 一般会計 3 款 1 項 2 目 地域生活支援事業 (004-03) | | | |
| 特記事項 | | | | |
| 事業期間 | <input type="checkbox"/> 单年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 单年度繰返 | <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 | 開始年度 昭和 57 年度 |
| 根拠法令等 | 盛岡市福祉タクシー事業実施要綱 | | | |

(2) 事務事業の概要

外出が困難な在宅の重度障害者に対し、タクシー料金を助成することによって社会参加の促進を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

国際障害者年（昭和 56 年）を契機に昭和 57 年 6 月から実施。（盛岡市福祉タクシー実施要綱）

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3) からどう変化したか。

平成 22 年 9 月 6 日付で要綱を改正し、券面額を 520 円から 580 円に変更した。障害者手帳の交付増や障害の重度化により、交付件数は増加の傾向にある。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

- ①身体障害者手帳の交付を受けている方で、
(1)肢体不自由者(児) 1 級及び下肢か体幹を含む 2 級、
(2)視覚障害者(児) 1 級及び 2 級、
(3)内部障害者(児) 1 級。

- ②療育手帳の交付を受けている方。
③精神保健福祉手帳 1 級を受けている方。

※ただし、自動車税、軽自動車税の減免を受けている方と福祉施設等に入所中の方は対象になりません。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

| 指標項目 | 単位 | 22年度 実績 | 23年度 実績 | 24年度 計画 | 24年度 実績 | 26年度 見込み |
|-----------------------|----|------------|------------|------------|------------|-------------|
| A 交付対象者総数(交付制限対象者を含む) | 人 | 6,862 | 6,975 | 7,000 | 7,235 | 7,675 |
| B | | | | | | |
| C | | | | | | |

(3) 24年度に実施した主な活動・手順

申請に基づき窓口（障がい福祉課、都南総合支所、玉山総合事務所）にて当該年度分を一括して交付する。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

| 指標項目 | 単位 | 22年度 実績 | 23年度 実績 | 24年度 計画 | 24年度 実績 | 26年度 目標値 |
|--------|----|------------|------------|------------|------------|-------------|
| A 交付件数 | 件 | 3,291 | 3,423 | 3,600 | 3,546 | 3,560 |
| B 利用枚数 | 枚 | | 57,052 | 60,000 | 60,425 | 62,000 |
| C 交付枚数 | 枚 | | 76,206 | 80,000 | 79,574 | 84,000 |

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

移動が困難な在宅重度障害者に対してタクシー助成による外出支援を行なうことにより、より一層の社会参加の促進を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

| 指標項目 | 性格 | 単位 | 22年度 実績 | 23年度 実績 | 24年度 計画 | 24年度 実績 | 26年度 目標値 |
|--------------------|---------------------|----|------------|------------|------------|------------|-------------|
| A 交付件数/交付対象者総数×100 | □上げる □下げる ■維持 | % | 48.3 | 49.0 | 51.4 | 49.0 | 50.5 |
| B 利用枚数/交付枚数×100 | □上げる □下げる ■維持 | % | 69.9 | 74.8 | 75.0 | 75.9 | 73.8 |
| C | □上げる □下げる □維持 | | | | | | |

(7) 事業費

| 項目 | 財源内訳 | 単位 | 22年度実績 | 23年度実績 | 24年度計画 | 24年度実績 |
|-----|---------|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費 | ①国 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ②県 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ③地方債 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ④一般財源 | 千円 | 31,610 | 32,090 | 32,000 | 33,980 |
| | ⑤その他() | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | |
|-----|-------------------|----|--------|--------|--------|--------|
| | A 小計 ①～⑤ | 千円 | 28,257 | 32,090 | 32,000 | 33,980 |
| 人件費 | ⑥延べ業務時間数 | 時間 | 513 | 360 | 360 | 360 |
| | B 職員人件費 ⑥×4,000 円 | 千円 | 2,052 | 1,440 | 1,440 | 1,440 |
| 計 | トータルコスト A+B | 千円 | 30,309 | 33,530 | 33,440 | 35,420 |
| 備考 | | | | | | |

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

事業実施による外出時の移動支援は、安全且つ広範囲な社会参加を可能にし、又障害によって生じる負担軽減にもなっており、結果（政策体系）に結びついている。

② 市の関与の妥当性

外出支援は社会参加するにあたり不利に働くハンデを補うために有効な手段で、民間による割引等はいまだ不十分であるから、公共関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

外出支援が必要な重度障害者に対して発行しているため、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

外出支援が必要な重度障害者の外出手段が限定される。あるいは障害者の負担増を招き、社会参加の機会が失われるため廃止は困難である。廃止すると影響が出る。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

限られた予算の中では、現状維持が限界である。

(3) 公公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

当事業は公的扶助であり、利用者の費用負担の余地はない。一定の外出が困難な障害者に対して原則として均一の給付を行っているため、費用負担は公平・公正である。

(4) 効率性評価

他都市と比較して低い水準の交付である。タクシー券の交付枚数又は額面金額の減少は障害者の負担増を招く。所得制限を行って全体の公平性を確保する手段が考えられるが、障害者世帯においては所得が低い場合が多く、所得制限を行っても効果は少ない。むしろ所得調査を行うことによる人件費及び郵送費等の増大が著しいものになると予想され、効率が悪化する。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

- ①他市町村の事例を研究し、支給額の検討を継続する。
 - ②交付窓口の拡大、交付に係る人件費の削減など効率的な交付方法を検討する。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

受付簿冊及び窓口を増やす等、処理できる数を増やす必要がある。各支所において転入手続等により繁忙期を迎えた時期に、タクシー券の交付業務も集中することとなるため、各支所における理解が必要となる。

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
 - 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
 - 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

他都市の状況調査や、発行時期、発行方法等を研究しながら支給額や支給対象を検討するが、当面現制度で事業を継続する。